

【M&Aの現場から】 2019年5月号 295号 (2019/04/15)

【社楽パートナーズ】経営戦略から、実現のエクゼキューション・フォローアップまでの機能を提供する『トップマネジメント支援会社』

北 義昭 (代表取締役社長兼CEO)

社楽パートナーズは、2007年6月北義昭氏が設立したトップマネジメントの支援を行う独立系アドバイザリーファーム。

北代表は、1986年慶應義塾大学卒業後、三和銀行（現三菱UFJ銀行）に入行。企画部で経営・財務戦略、公的資金導入、銀行再編などを担当。03年UBS証券に入社し、投資銀行本部で金融機関担当グループの責任者（マネジング・ディレクター）として、大手銀行・地方銀行、ノンバンク、事業法人に関する数多くの大型M&A、資本調達、社債起債、事業再生案件を担当したのち、07年6月社楽パートナーズを設立した。現在、十数人のスタッフを抱える。



北 義昭氏

「銀行時代に企画部では、02年のUFJホールディングス設立や三和銀行と東海銀行と合併。また、UFJ銀行の法人企画部ではメリルリンチ証券との企業再生アドバイザリー会社『UFJストラテジックソリューション』の設立。さらに日商岩井とニチメンの経営統合による双日ホールディングスの設立などを担当しました。その後、外資系投資銀行で金融機関担当グループの責任者として、数多くの大型M&A、資本調達などを行ったわけですが、そうした経験を活かして、単にM&Aだけではなく、企業戦略とコーポレートファイナンスを一体化させたアドバイスを提供することが真に企業経営に役に立つと考えて当社を設立しました」と、北代表。

同社の業務は、戦略コンサルティング、金融コンサルティング、M&Aアドバイザリー、財務アドバイザリー、投資ファイナンス・アドバイザリー、企業再生アドバイザリー、事業開発アドバイザリー、金融商品取引業務、さらにターゲットファンドの組成によるベンチャー企業の支援まで大変幅広い。

これまで同社が手掛けた案件を見ても、USEN（現USEN-NEXT HOLDINGS）のファイナンシャルアドバイザーとしてインテリジェンスの売却、不採算事業の撤退、銀行団へのリスケ交渉を取りまとめたほか、CSKホールディングス（現SCSK）の戦略見直し・資本増強などの大型案件のファイナンシャルアドバイザー、ま

た自身が所属していた銀行の再編・資本増強経験を持つ北代表の実績・ノウハウを活かした新規銀行設立の支援、大手ネット銀行、大手地方銀行、信用組合などの買収、再編／統合、資本増強など難易度の高いアドバイザリー案件、最近ではソニーグループと大手タクシー会社5社による新会社『みんなのタクシー株式会社』の設立及び事業会社への移行に関する戦略コンサルティング、ヤマダ電機とスリーダムによる合併会社『ソーシャルモビリティ株式会社』について検討段階から設立までの戦略的アドバイス案件など、単なるM&Aではなく戦略的な案件の支援に当初から深く関与することが多い。

「戦略コンサルティング会社でもなく、投資銀行、M&A助言会社でもなく、投資ファンドでもない。トップマネジメントが抱える経営課題を解決するために、“経営シェルパ”として経営戦略から実現のエグゼキューション、フォローアップまで総合的にサポートするというコンセプトのもとに、トップマネジメントの支援をこれからも行っていきます」と、北代表は今後も唯一無二の戦略支援会社であり続けると明言する。

・社楽パートナーズ <http://www.sharaku-corp.co.jp/>